

10万人の

# ギャラリー

鳥居跡町にお住まいの山口太平さんの流木作品「とけい」を紹介いたします。

山口さんの流木との出会いは、9年前。友人と訪れた五十里湖の岸辺に流れ着いた自然のままの流木にとっても感動したそうです。

作品作りは、素材との出会いから始まります。早朝から流木を集めに出かけ、味のあるものを見つけたら、作品のアイデアがひらめきます。また、素材を活かして何を作ろうかと想像も膨らみます。



▶山口太平さんの流木作品「とけい」

収集してきた流木は、丁寧に洗い、磨き、少しずつそのものの味を出していきます。山口さんは流木に接していると、リラックスしている自分に気が付くそうです。「流木は、長い旅路の果てにその形を少しずつ変え、自然がつくり出した時の流れを感じさせてくれます。これからも、この癒しの時間を楽しみながら作品を作っていきたいです」と、生き生きと話しています。

収集してきた流木は、丁寧に洗い、磨き、少しずつそのものの味を出していきます。山口さんは流木に接していると、リラックスしている自分に気が付くそうです。「流木は、長い旅路の果てにその形を少しずつ変え、自然がつくり出した時の流れを感じさせてくれます。これからも、この癒しの時間を楽しみながら作品を作っていきたいです」と、生き生きと話しています。

## ★作品募集★

10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

☎0289-2128

## 作品介绍 130

# 川上澄生の世界

この作品は、ガラス絵です。「ガラス絵」とは、ガラスの裏面に普通の絵画とは逆の順序で、一番表にできる細かい部分から先に描いていく絵です。日本には、江戸時代に中国のガラス絵が伝えられました。明治末期から衰えてしまった大衆絵画のガラス絵を、芸術の域に高めて描いたのが、洋画家・小出榎重で、澄生は小出の影響で制作を始めました。

黒の太い輪郭線で描かれたこの作品は、まるでステンドグラスのように清らかな光に満ちています。赤、青、緑の落ち着いた色調で構成され、聖母子の後輪がひとときわ

成され、聖母子の後輪がひとときわ輝きを放っています。作品は小さいですが、澄生自作の陶製の重厚な額に納められています。

澄生はクリスチャンではありませんでしたが、青山学院というキリスト教の学校に通っていたため、キリスト教に精通していました。そのような背景もあって、この作品を制作したのでしょうか。

今回の展示では、このほかにも貴重な肉筆画が目白押しです。この機会をどうぞお見逃しなく。

学芸員 早川未央



この作品は2階展示室で開催中の「川上澄生 ガラス絵と肉筆—絵筆から生まれるもの—」展に出品しています

## 川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎(62)8272

1階展示ホールでは「地域の作家 森谷哲夫・山崎丈夫 展」を同時開催中です。ぜひご覧ください。

## 「聖母子像」

一九五〇年(昭和二五)

油彩 ガラス

(画面寸法 縦9.0×横6.5cm)